

誰一人取り残さない 情報発信のサイクルを目指して

第2回 ユニバーサルデザインフォントの特徴



UDフォントの特徴と行方市での活用

前回は、本市が活用しているUDフォントをどのような背景があつて活用しているのかについてお伝えしました。今回は、UDフォントの特徴や活用についてフォーカスしていきます。

まず、モリサワのUDフォントは、フォントデザイナーが「文字のかたちがわかりやすい」「文章が読みやすい」「読み間違えにくい」というコンセプトで、一文字一文字ずつデザインをしています。

広報誌などで利用しているフォントには、どれくらいの文字数が収録されているか、皆さんご存じでしょうか？実は、最大で約2万3千字もの文字が収録されています。本市が採用しているUDフォントは、その一文字一文字、人の手で作られ人の目で確認し、調整されて開発されています。それらの文字を3つのコンセプトで、統一したフォントデザインを作っていくのです。

図1では、線と線の空きを広く確保することで、例えば老眼で文字がぼやけてしまっても識別ができるようにデザインされていますし、小さな文字サイズでも「ブ」なのか「プ」なのか識別しやすいように濁点、半濁点が大ぶりにデザインされています。

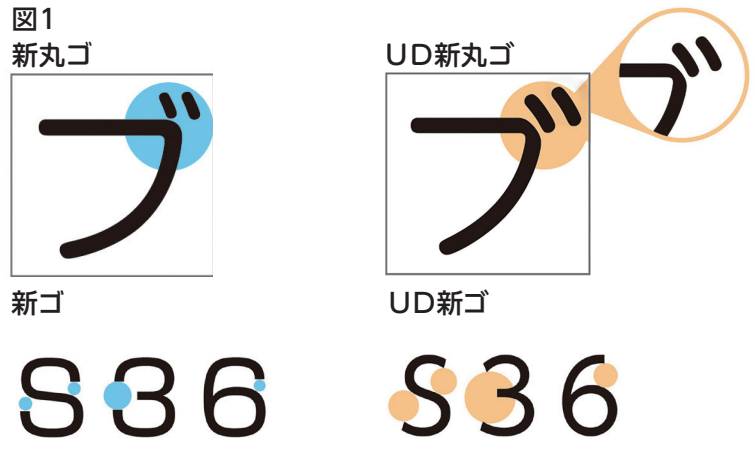


図1 新丸ゴ

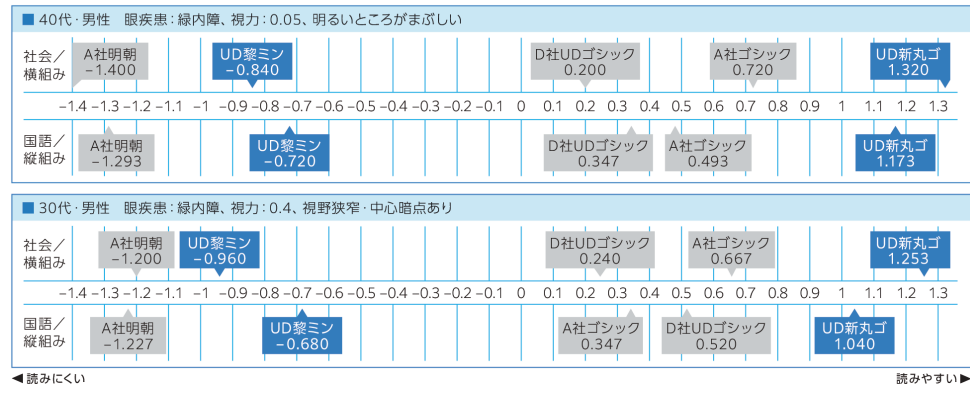
新ゴ



UD新ゴ



グラフ1 【ロービジョンを対象とした検証 | 一対比較実験結果】



UDフォント、読みやすいワケ
 実は、フォントデザイナーのスキルだけではないのが、UDフォントの最大の特徴です。さまざまな環境下でも、本当に読みやすいと感じるのか、読みの速度に差があるのかなど、複数の研究者と検証を実施してきました。

グラフ1にあるように、ロービジョン（弱視）を対象とした検証では、シミュレーションによる晴眼者実験を踏まえ、病気や事故などが原因で視力に障害のある弱視（ロービジョン）の方々に対しても検証を実施しました。

その結果、多くのロービジョンの方にとって、UD新ゴやUD新丸ゴが読みやすいことがわかりました。特にUD新丸ゴは、他のユニバーサルデザイン書体との比較でも、約9割の方がもっとも読みやすい書体として評価しました。

また、ディスレクシア（読み書き障害）のある小学生を対象にした検証では「UDデジタル教科書体」というユニバーサルデザインの教科書体が他の教科書体よりも読みやすく、また読みの速度の改善も確認されました。

このように、フォントデザイナーの技に加え、エビデンス（科学的根拠）の数値的結果も持ち合わせているのがUDフォントの特徴です。

今回は、最後に紹介したUDデジタル教科書体というフォントにフォーカスしていきたいと思いま

編集協力・株式会社モリサワ